



みすほの丘の希望

令和7年12月24日
第14号
生徒数/393名
文責/堀川博基

西中職員指導理念/生徒活動指針 Action/踏み出す力 Thinking/考え抜く力 Teamwork/協働する力

Merry Xmas

そして… よいお年を…

■2025年も大変お世話になりました…。
■2026年も何事も
うま(う)くいく1年
となりますよう…お願い
申し上げます。

今年やり残したことは、たいてい、来年もやり残すから…

令和7年も残り1週間…。西中生諸君…この1年に悔いはないか？毎年この1年の最終号には、自戒の念も込めて上記台詞を掲げている。「今年やり残したことは、たいてい、来年もやり残すから…」自らを戒めつつ経験からそう思う。残り1週間、今一度この1年を振り返り自分の「やり残したこと…」を洗い出したい。そしてできることなら何とかやり遂げ、来年の自分の心の負担を少しでも軽くして2026年午(うま)年を迎えたいと思う…。電源を入れるとサンタの人形が歌い踊ります…生徒は引いていました…

今年の漢字は「熊」。
今年の流行語・流行語大賞は
「働いて働いて働いて働いて働いて働いてまいります」。
今年の創作四文字熟語は「古米奮闘」。
今年の一皿は「お米グルメ」。

「熊出没」に、「高市首相」に、「米騒動」に…。今年も振り返ってみれば様々なことがあった…。君たちにとっての今年の漢字は？今年の流行語は？今年の四文字熟語は？今年の一皿は？果たして何になるのだろうか…？私もこの1年をじっくりと振り返り西中の今年を考えてみた。

■今年の漢字は…「**熱**」。史上最高に暑い熱い(?)夏でした…。そんな酷暑の中でも君たちは前向きに立ち向かい熱い熱い中学校生活を謳歌してくれた。君たちの熱意に敬意を表し私の選んだ漢字は「熱(アツ・ネツ)」だ！

■今年の流行語は…「**西中が好き!**」。昨年度末から今年度当初にかけて随分と発したような気がする。集会等ではアンケート結果が出るたびに、スクリーンの前で口にしてた。赤ジャにはちょっとした耳障りな話になったかもしれない(しつこくて申し訳なかった…)。先週末、学校評価が締め切られた…一喜一憂するわけではないが結果は楽しみだ。「西中に通うのが楽しいか?」「西中を誇りに思うか?」即ち「西中が大好きか?」…。素直な君たちの気持ちがしっかりと表現された結果であってほしいと祈っている…。だって「西中が好きなんだろ!」…多分?…きっと?

■今年の創作四文字熟語は…「**起死快晴**」(「起死回生」の創作)。今年は…いや今年も生徒や教職員に様々なピンチが降り注いだ。行事前の感染症流行、校外学習での悪天候(+延期)、修学旅行の朝の東上線、学校への不応等…。西中への様々な壁が立ちちはだかったが、君たちはすべてのピンチをチャンスに変換してくれた。体育祭、合唱コン…感染症の影響を最小限に食い止め実施できた。校外学習での悪天候は、その内容を充実させることで心晴れ晴れとした快晴の成果を生んでくれたと思っている。先日の修学旅行…もう語る必要はない。あれ以上の起死回生(快晴)がどこにあるのか。不登校の生徒も徐々に減少している。そして更に「西中が好き!」になって欲しい。土砂降りの豪雨を、風吹きやまぬ嵐を…そんなピンチをチャンスにし、晴れ晴れとした気持ちにしてくれた今年の西中生だと私は思っている。正しく「起死快晴」の1年だった…!

■今年の一皿は…「**給食**」に尽きる…? 各学年とも食が太くなった1年だと思う。赤ジャは職員室に常におかわりを求めてきた。緑ジャはとにかくよく食べる…。修学旅行では宿舍のお米を全部食べ尽くす勢いだっ…。青ジャも元気に頼張る! 給食の準備も早い。いつでも食欲に立ち向かう臨戦態勢を見せていた。みとせの一皿は調理実習でのカップケーキだ。今年もたくさんつくった。抹茶に紅茶、チョコチップとどんどんバリエーションも増えていく…。果たしてみとせはどこを目指しているのだろうか?(来年は「cafe みとせ」がオープンするのかもしれない…!?)
恋愛ドラマで「今度生まれかわったら…」という台詞がよく聞かれるが…、もし生まれ変わるのなら「生きているうち(つまり今)でなければ意味がない!」と思う。■3年生、西中生として有終の美を飾るために生まれ変わろう! ■2年生、悔いのない中学生生活を送るために生まれ変わる最後のチャンスだ! ■1年生、もう後戻りはできないぞ! 西中を背負うために今生まれ変われ! ■みとせの諸君、また新しい一歩を踏み出すために生まれ変わろう! 2026「はね駒」の如く駆け巡る西中生に期待する!

■2025年(令和7年)、保護者の皆様におかれましては西中へのご理解、ご協力の程、誠にありがとうございました。おかげさまで今年も大過なく終わられる事と思っております。来年も馬の如く元気に飛び跳ねる西中生へのご支援をよろしくお願いいたします。また学年末を迎える3学期、PTA活動等を含め次年度の学校改善へのご協力もよろしくお願いいたします。

奇跡の修学旅行 ー前しか向かない緑ジャー

何も言うことはない…本当に楽しくて、面白くて、感動した修学旅行だった…。

■12月11日(木) 修学旅行初日。昨日まで冗談として語っていた東武東上線のトラブル(成増駅信号機故障)…まさか現実になるとは…。志木駅で全員降ろされた。「もう無理かな…」と修学旅行中止も脳裏をよぎった。しかしながら志木駅で待たされてもニコニコと京都・奈良に想いを馳せる生徒の顔…わずかに入線する東上線は身動きがとれないほどの超満員…。それでも「行けるところまで行く!」と気持ちを振るい立たせ、「各班! 何とか自分たちの力で東京駅までとり着け!」と生徒のポテンシャルを信じた。緑ジャ全生徒が必死で東京駅へ向かう…。経験したことのない超満員電車での辛抱、大混雑する池袋駅で友だちの背中を追いかける根気、体調不良も我慢しつつ歩を進める根性。…何と東京駅に全生徒が自力でとり着いた。到着時間は新幹線発車の20分前…団体改札など通らず最短ルート的一般改札を通り抜け新幹線ホームへ、乗車予定の「のぞみ217号」はすでに14番線に入線している。息を切らしつつ最後の生徒が新幹線座席に腰を下ろしたのは17:33…発車のたった6分前だった。私の40年以上の修学旅行引率経験でもこんなにもドラマチックな出発は初めてだった。まさしく奇跡だ…。

■12月12日(金) 2日目…。本部の携帯電話は電源を入れ忘れたかと思うほど、微動だにしない。何か困り事やトラブルがあれば本部携帯に連絡が入るはずになっているのだが…。昨日の奈良、今日の京都と班別行動…本部携帯が鳴らないことがその結果のすべてだ。とにかくにも各班毎、奈良・京都を満喫できたようだ。京都では地元ガイドさんが各班に着いてくれたが、随所でガイドさんと共に楽しむ姿が見られた。中にはガイドさんをニクネムて呼ぶほど交流を深めた班もあった。歴史的な話はもちろん、京都の文化、風俗等、普段耳に、目にすることのない裏側まで学ぶ事ができた班別行動であった。ガイドさんからは「楽しくて、優しい生徒さんたちでした…」という言葉と共に満面の笑みをいただいた。そして、何よりも2日間の奈良・京都班別行動…御殿荘に遅れて帰着する班はひと班もなかった…。これもまた奇跡のひとつだ…。

■2日目夜、修学旅行の疲れもピークに達し、体調不良者を覚悟していた。だが…これも緑ジャの底力、何と3日間を通して体調不良者は1名も出なかった。御殿荘から保護者の方に連絡を入れたのもケガの1件のみであり、京都へのお迎えなどはもちろんない。ここ数年保護者の方には、京都までのお迎えがほぼ必然のようになっていたが、今年は1件もない。旅行後の保険手続きを行わなかったのは、一体何年振りだろうか…。緑ジャの元気…これも君たちの凄さであり、誇れる奇跡だ…。

■天も味方した。公共交通機関を使う京都班行動…。1番気になったのはオーバーツーリズムでの大混雑であったが…。ガイドさんから発せられた言葉は「こんなに空いている金閣寺は久しぶりですよ」の一言。今年は例年とは違う急激な冷え込みにより、京都の紅葉は12月までもたなかった。紅葉盛りの大混雑直後という事で、京都の街は閑散期と落ちていた。修学旅行という点では、これ以上ない絶妙のタイミングだ。京都の市バスでも「ほんとに座れた!」と生徒は発していた。君たちは「運」だけで生きていくのか…? そんなことはない、これも「運」を呼び込む君たちの奇跡だったのだと思う…。

■12月13日(土) 3日目、こわいくらいの快晴。嵐山の散策にはベストコンディションだ。「疲れ」そんな言葉は緑ジャの辞書にはない。みんな笑顔で天龍寺の借景を、竹林の風情を、嵐山グルメを、そしてお小遣いをすてき出すように買い物を楽しんでた。中には「嵐山モンキーパークいわたやま」(地元の人々は時々行くが、観光客は減少に行きません)まで、往復約60分の登山に挑戦した生徒も、教員もいたとか…? またそれも思い出…。緑ジャの事だ、絶対にどんでん返しがあると警戒しつつ帰路へ着いたところ…嵐山から京都駅には20分も早く到着(いつもは結構な混雑)、東京駅から学校へも時間通り(首都高速もスムーズ)、何と学校到着が17:29とほぼジャストタイム!(2月のスキーは3時間遅れでしたが…)。これも広い意味での緑ジャの奇跡…かな。

■なぜこんなにも緑ジャの奇跡が生まれたのか…? 帰って3日振りのビールを飲みながら考えた…。ひとつひらめいた! それは緑ジャがすべてにおいてポジティブで前しか向かないということ…。□あまりきれいなとは思えない景色でも「超きれいな」。□終わった紅葉を見ても「紅葉、真っ赤だね」。□簡単なお弁当にも「超おいしい」。□ガイドさんの普通の説明にも「超ためになった」。□友だちの普段の頑張りにも「超頑張ったよね」。□初日朝のトラブルにも「結構楽しかった」。□先生の決して笑えない必死の漫才にも「超クオリティ高い」。□最後は…「校長先生、もう一泊しましょうよ。雪降らないかな?」。…校外行事で時々耳にする「帰りたい」「気持ち悪い」「つまらない」「スマホ気になる」「旅館古い」「食事いまいち」等のネガティブな言葉は一切私の耳には入ってきませんでした。これが緑ジャの凄いくところですよ! 少し人間気? なのかもしれないませんが、本能的に楽しむセンスと本質的に優しくあたたかい人間性が育っているのが緑ジャです。2泊3日、本当にストレスのない楽しくも充実した修学旅行でした。楽しかった!

■こんな素敵な修学旅行に生徒を導いてくれた、本校職員に敬意を表します。そして多様な側面から支えていただいた保護者の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。自信を持って誉められた修学旅行だった。ただ、誉めると調子に乗るのが緑ジャの諸君だ…。調子に乗らず、謙虚に考え最高学年を迎えてもらいたい。…私は、今から緑ジャが創り出してくれる令和8年度「体育祭」「合唱コン」が心から楽しみになった。期待しているぞ、緑ジャの諸君! 西中に新たな奇跡を起こしてくれ…!



夢に出会う 2025.12.20 中学生の主張大会 2年生/〇〇 〇〇 さん 出場

演題「夢に出会う」。自分の信じる夢に出会うことができる…。日々周りの情報に敏感となり、学校生活や毎日が充実する。生きていることを意識し、自分から夢に出会いに行こう。2年生の〇〇〇〇〇〇さんはそんなメッセージを、鶴瀬コミセンのステージからみんなに発してくれた。射貫くような眼で、力強く…。中澤さんの真剣で正直な訴えが、観客の心を揺さぶったのだと思う。聞き終わった後、私の心は心地よい高揚感であふれていた。

〇〇さんお疲れ様…素敵な主張をありがとう!



スケアードストレイト(12/19 実施)

スタントマンの迫真の演技によるスケアードストレイト交通安全教室が実施された。衝突時の衝撃音が直接生徒の恐怖感をおおる…。怖く感じた生徒もあったかもしれないが、事実を直視し交通安全を意識してほしい。君が被害者とならないように…。



冬休み…自分の命は自分で守る! (安全は自分で創るという意識を…)

14日間という短期間でありつつも、イベント目白押しの賑やかな冬休み。その賑やかさに紛れて、様々なトラブルに巻き込まれやすいのも冬休みだ。いつも言うようにまずは「自分の命は自分で守る!」という基本に立ち、安全な生活を自分で創り維持できるように、毎日意識して生活してほしい。

■SNSを介したトラブルの回避

闇バイト、誹謗中傷、不同意性交、オンラインカジノ…現代における子供の危機の多くはSNSを介して巻き込まれる場合が多い。生徒、保護者…家族ぐるみで危機管理に努めてほしい。オーストラリアが未成年にSNSを禁止した理由がよくわかる。

■交通事故の予防の徹底

先日実施されたスケアードストレイトにより、交通事故のこわさは理解できていると思う。後は自分で自分の命を守る行動を…! (特に自転車ヘルメット着用)

■金銭管理を確実に…

お正月、君たちはいつもより多少はお金持ちになるのだろう。その使い道や管理には十分な注意を…様々な詐欺が中学生を狙っている。中学生だ、安心・安全な生活なくして自分で意識できるはずだ。まずはゆっくり休み、2026.01.08に元気に笑顔で新年初登校を飾ってほしい…。

◆冬休み中 12/27~1/4の間は学校への連絡はつながりません。緊急を要する場合は、富士見市教育委員会 ☎ 学校教育課(代表 049-251-2711 から学校教育課)へ。